

令和元年第9回稲城市教育委員会定例会

1 令和元年9月17日、午前10時から、消防署講堂において、令和元年第9回稲城市教育委員会定例会を開催する。

1 教育長及び出席委員は、次のとおりである。

加藤 明（教育長）
城所 正彦
今泉 浩史
澁谷 香織
杉本 真紀子

1 出席説明員は、次のとおりである。

教育部長	石田 昭男
教育指導担当部長	大川 優
教育総務課長	町田 義信
学務課長	中島 英
指導課長	岸 知聡
生涯学習課長	関口 美鈴
学校給食課長	山本 有美
図書館課長	佐藤 由美子

1 職務のため出席する職員は、次のとおりである。

教育総務課教育総務係長 齋藤 晃二
教育総務課教育総務係 加藤 綾子

1 会議に付された事項は、次のとおりである。

- (1) 日程第1 会議録署名委員の指名
- (2) 日程第2 会期の決定
- (3) 日程第3 教育行政報告
- (4) 日程第4 第33号議案
「平成31年度稲城市教育委員会職員の人事について」
- (5) 日程第5 報告事項

教 育 長 ただいまから、令和元年第9回稲城市教育委員会定例会を開催いたします。

それでは、日程第1 本日の「会議録署名委員」について、お諮りいたします。前例に従いまして、教育長指名といたしたいと思っております。ご異議ございませんでしょうか。

(異議なしの声あり)

教 育 長 ご異議なしと認めます。よって、本日の会議録署名委員は、今泉委員にお願いいたします。

次に、日程第2 「会期の決定」について、お諮りいたします。本定例会の会期を本日1日とすることにご異議ございませんでしょうか。

(異議なしの声あり)

教 育 長 ご異議なしと認めます。よって、会期は本日1日と決しました。

次に、日程第3 「教育行政報告」です。

教育行政報告につきましては、各課長より報告いたします。

[教育行政報告]

教育総務課長 1 教育委員会後援名義について
2 工事請負状況について

学務課長 1 令和元年9月1日現在の児童・生徒数について
2 毒劇物管理状況点検の実施について
3 平成31年度第2回東京都市学事・保健・給食担当課長会について
4 平成31年度第1回稲城市立学校給食共同調理場運営委員会について
5 児童・生徒数、学級数（令和元年9月1日現在）について

指導課長 1 担当者事業について
2 推進事業について
3 研修事業について
4 教育センター関係について

生涯学習課長 1 社会教育活動の振興について
2 芸術文化活動の振興について
3 成人式関係について

- 4 文化財の保護と普及について
- 5 生涯学習推進事業について
- 6 学校施設コミュニティ開放事業について
- 7 放課後子ども教室参加状況について
- 8 公民館主催事業の実施状況について
- 9 iプラザの主な主催事業の実施状況について
- 10 令和元年8月生涯学習課利用統計について

学校給食課長

- 1 2学期学校給食開始について
- 2 多摩地区学校給食共同調理場連絡協議会職員合同研修会について
- 3 多摩地区学校給食共同調理場連絡協議会献立部会について
- 4 学校給食野菜に関する圃場見学会について

図書館課長

- 1 市主催事業について
- 2 中央図書館主催事業(SPC運営)について
- 3 分館主催事業について
- 4 資料展示について
- 5 城山体験学習館の主な事業について
- 6 地域との連携について
- 7 学校との連携について
- 8 図書館の利用状況(令和元年8月)について

教 育 長

教育行政報告が終わりました。

次に、日程第4 第33号議案「平成31年度稲城市教育委員会職員の人事について」及び日程第5 報告事項を議題といたします。

本日の報告事項は、報告事項1「個人情報に関わる案件」、報告事項2「平成31年度稲城市学力調査結果概要について」の2件ですが、まず、報告事項1「個人情報に関わる案件」を議題といたします。

第33号議案は人事案件、報告事項1「個人情報に関わる案件」は個人情報案件であることから、秘密会といたしたいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(異議なしの声あり)

教 育 長

ご異議なしと認めます。よって、第33号議案及び報告事項1「個人情報に関わる案件」を秘密会といたします。本秘密会においては、関係者以外の退席を求めます。暫時休憩します。

(暫時休憩)

※関係者以外の職員と傍聴者は退席する。

(これより第33号議案、及び報告事項1「個人情報に関わる案件」は秘密会)

秘密会議録は別紙

(これにて第33号議案、及び報告事項1「個人情報に関わる案件」の秘密会は終了)

教育長 再開いたします。

これより第33号議案、「平成31年度稲城市教育委員会職員の人事について」を採決いたします。

本案を原案のとおり可決することに賛成の委員の挙手を求めます。

(挙手全員)

教育長 挙手全員であります。よって、第33号議案は原案のとおり可決いたしました。

次に、日程第5 報告事項2「平成31年度稲城市学力調査結果概要について」を議題といたします。

指導課長より、説明をお願いいたします。指導課長。

指導課長 それでは、「平成31年度稲城市学力調査結果の概要」につきまして、報告させていただきます。

稲城市学力調査につきましては、平成29年度から始まった事業でございます。今年度は実施3年目となります。

お手元のA3判の資料1枚目をご覧ください。左側に本調査の概要について記載がございます。

本調査の目的につきましては、学習指導要領において習得が求められている各教科の内容について、稲城市立中学校生徒一人ひとりの学力の定着状況、定着の傾向、学力と学習状況の相関関係、学力と生活習慣等との相関関係を調査することにより、教員の指導方法の改善を図り、生徒一人ひとりの確実な学力向上に資することでございます。

調査の対象は中学校第1学年生徒でございます。

調査の内容につきましては、教科に関する調査と、学習や生活についてのアンケートの大きく二つございます。

教科に関する調査につきましては、国語と数学につきまして、小学校で学習した内容の範囲から出題されております。

学習や生活についてのアンケートにつきましては、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査を行いました。

調査日は、平成31年4月25日に市内全中学校において実施しております。調査結果を説明申し上げます。右上の調査結果概要をご覧ください。

なお、調査結果の報告に当たりましては、学力調査により測定できるのは学力の特定の一部分であることと、本調査の目的が教員の指導方法の改善を図ることであるという趣旨を踏まえ、本調査の結果をもって学力全体の評価を行うものではないということを申し添えさせていただきます。

記載内容でございます。全国の平均得点率につきましては、委託業者が本市と同じ調査を実施している全国の自治体のこれまでの結果を踏まえ、到達度の目安として示しているものでございます。

また、括弧の中の数値につきましては、平成30年度の結果でございます。

本市の調査結果につきましては、稲城市の平均得点率は、国語、数学全ての領域において、全国の平均得点率を上回っております。

国語につきましては、そこに記載のとおり、特に「説明的な文章を読むこと」や「適切な言葉を選び話すこと」、「適切に話し合うこと」の小領域におきまして、十分定着が図られていると考えられます。

課題といたしましては、「語句の構成を理解すること」の項目で、課題が見られました。

数学につきましては、特に「資料の活用」の領域において定着が図られていると見られ、また小領域につきましては「起こり得る場合」、「平均、速さ」の小領域におきまして、十分定着が図られていると考えられます。

課題といたしましては、「数と式」の領域における「小数のしくみとその計算」の項目で、課題が見られました。

続きまして、右下の部分、学習や生活についてのアンケートの結果につきまして、ご説明申し上げます。調査結果の詳細につきましては、2枚目以降に記載してございますが、主だったものを幾つか選んでそこに記載いたしましたので、ご説明申し上げます。

まず、1の「学校へ行くのは楽しい」という設問につきましては、肯定的な回答が約89%。また、3の「自分のクラスは、みんなでなかよく協力しあっている」という設問の肯定的な回答が約93%あることから、小学校から中学校へ進学し、多くの生徒が中学校生活になじんでいる様子がうかがえます。また、6の「学校の授業はよくわかる」という設問の肯定的な回答が約95%であることから、学習にしっかりと取り組んでいる様子がうかがえます。

一方で、10の「授業で習ったことは、その日の内に復習している」という設問の否定的な回答が約35%ございます。この設問につきましては、平成30年度の否定的な回答が約41%だったので、改善傾向は見られておりますが、今後の家庭学習の一層の充実が求められていると考えております。

番号が戻りますが、5の「困ったときに、相談できる先生がいる」という設問の否定的な回答が約19%。また、9の「授業で分からないことが残

ったときには、休み時間や放課後に先生や友達に聞くようにしている」の設問の否定的な回答が約35%という結果でございました。本調査につきましては、実施時期が中学校第1学年の4月でありますことから、生徒と教員とのコミュニケーションがまだまだ十分ではない時期ということによる結果とも考えられます。

なお、平成30年度の結果と比較いたしますと、5につきましては否定的な回答が約6ポイント減少し、9の設問につきましては約2ポイント減少しておりますので、平成30年度の結果よりは否定的な回答の割合は減少しております。改善の傾向が見られているところではございますが、引き続き学校生活を通じて、生徒と教員との信頼関係を構築することにより、肯定的な回答が増えるように努めることが大切であると考えております。

また、16「自分の良いところを自分で分かっている」という設問の否定的な回答が約34%という結果でございました。これにつきましては、平成30年度もほぼ同様の割合でございます。

中学生の時期は人からの評価を気にしたり、人と比較したりすることで、自己評価を低下させるという傾向が強まってくる時期とも言われておりますことから、学級活動等を通して自己の個性を肯定的に捉えたり、自他のよさや可能性に気づけたりするような指導が一層求められているものと考えております。

26の「あなたは、本をよく読みますか」という設問の肯定的な回答につきましては約76%という結果であり、昨年度もほぼ同様の割合でございました。引き続き朝読書等の取り組みを通じて、読書活動の推進を図ってまいります。

続きまして、2枚目以降でございますが、学習や生活についてのアンケートと教科に関する調査の平均得点率とのクロス集計結果でございます。主だったもののみご説明申し上げます。

まず、2枚目、No.2でございますが、右下の設問9「授業で分からないことが残ったときには、休み時間や放課後に先生や友達に聞くようにしている」、それから10「授業で習ったことは、その日の内に復習している」という設問につきましては、これは平成30年度も同様でしたが、肯定的な回答をした生徒のほうが平均得点率が高いという傾向にございます。

9の設問につきましては、先ほど申し上げたとおり、平成30年度と比較して改善傾向は見られておりますが、生徒と教員との信頼関係を構築した上で、わからないことを積極的に解決しようとする意欲を高めることが大切であると考えております。また、10の設問につきましても、家庭学習を促すための一層の工夫が必要であると考えております。

めくっていただいて、No.3をご覧ください。左上の11、12、13の設問でございますが、これにつきましても平成30年度と同様に、肯定的な回答をした生徒のほうが平均得点率が高い傾向にございます。

11の「ノートをまとめるときには、自分なりの工夫をしている」の設問から、ノート指導は重要であるということ。それから、12の「テストが返されたとき、点だけでなく、どこがまちがっているかを調べる」の設問からは、学習の振り返りが大切であるということ。また、13の「もっと勉強して、いろいろなことを知りたいと思う」という設問からは、学習に対する意欲を高める指導の工夫が大切であるということが考えられます。

これら3つの設問につきましては、いずれも平成30年度と比較しまして、肯定的な回答の割合が増えておりますので、中学校におきまして引き続き指導の工夫を進めていくことが大切であると考えております。

続きまして、めくっていただいて、資料のNo.4をご覧ください。右上の26「あなたは、本をよく読みますか」の設問につきましては、肯定的な回答をした生徒のほうが平均得点率が高い傾向にあり、学力と読書活動の相関関係が見られるところでございます。先ほど申し上げましたとおり、引き続き読書活動を推進することを大切であると考えております。

右下、「学校がある日に、1日にどれくらいゲームをしますか」の設問につきましては、短時間でゲームを終えている生徒と長時間ゲームを行っている生徒との間で平均得点率に相関関係が見られます。

長時間ゲームをすることにつきましては、学力の面だけでなく健康の面からも課題があることから、適正な利用の仕方や家庭での時間の使い方などにつきまして、学校と家庭とが協力しながら指導を進めていくことが大切であると考えております。

その他の設問の詳細につきましては、お手元の資料でご確認いただけたらと思います。

現在、各中学校におきましては、学校ごとに自校の調査結果を分析いたしまして、成果と課題を明らかにし、授業改善推進プランなどに反映して授業改善に活用しているところでございます。

今回の調査は中学校第1学年の4月の調査であることから、今後の中学校における指導を通して課題の改善が図れるよう、取り組んでまいりたいと考えております。

以上、「平成31年度稲城市学力調査結果の概要」についての報告とさせていただきます。

教 育 長 以上で、報告事項2「平成31年度稲城市学力調査結果概要について」の説明が終わりましたので、これより質疑をお願いいたします。杉本委員。

杉本委員 幾つかあるのですが、質問だけまず先に言わせていただきます。

まず、この調査結果概要は、ここで報告をいただいた後、どう扱うのかというのが1点。

2点目として、平成30年度はどうだったというお話が幾つかありました

が、もともと、都の調査、国の調査が小4、小5、中2、中3である中で、この調査を中1のここに入れた目的は、経年変化で中1だけあいていたところを確認するということにあったと思いますので、その経年変化という視点から、何らかの見られた特徴があるかどうかを教えてください。

3点目、全国というのは先ほどご説明がありましたけれど、委託している業者が持ってきた、同じ会社でも調査をしている平均値と聞きましたけれど、もしわかれば、どれぐらいの自治体が、また例えば全国学力調査でどのぐらいの傾向にある地域が入っているのか、教えてください。

4点目、今後、中学校で授業改善推進プランに生かしていくというお話でしたけれど、中学校の4月の実施となりますと、この結果は小学校に活かしてもらおう必要があるかと思うのですが、その辺、小・中の情報交換等をどのようにされているか。以上4点、お願いします。

教育長 指導課長。

指導課長 まず、本調査の結果概要の扱いについてでございますが、本日教育委員会に報告させていただきましたので、次の校長会で資料として配布いたしまして、本市の傾向を確認して、学校の改善に活かしていただこうと考えております。

なお、各中学校には、中学校個別の調査結果はそれぞれ既に1学期の段階で届いておりますので、それぞれの中学校における課題についての対応については、もう既に進めているところでございます。これが1点目でございます。

2点目の経年変化の視点でございますが、一つはこの調査そのものの経年変化ということと、あとは当該学年の経年変化ということがあるかと思えます。

この調査に関する経年変化につきましては、先ほどアンケートの部分では平成30年度との比較の部分をつまご説明申し上げましたが、教科に関する調査につきましては、平成30年度と平成31年度の結果を見比べてみましたところ、今回、例えば国語で「説明的な文章を読むこと」が定着している中身として挙がっておりますが、実は昨年度も同様の部分が定着している内容として挙げられております。

逆に、「語句の構成を理解すること」につきましては、2年連続の課題となっております。

また、数学につきましては、「平均」という部分が今回定着が図られていることとして挙がっておりますが、これにつきましては昨年度も定着が図られていると報告させていただいております。

「小数」につきましては、2年連続で課題として挙げられておりますので、調査学年は異なりますが、稲城市としての国語、数学の定着が図られ

ている部分と課題の部分につきましては、2年連続で同じ課題が見られるということから、これにつきましては市として全体的に取り組んでいく必要があると捉えているところでございます。

それから、当該学年の結果から見える課題についてでございますが、今回対象である中学校第1学年は昨年度、平成30年度に、全国学力・学習状況調査を小学校第6学年のときに受けております。

国語につきましては、その関係で明確なものは確認できなかったのですが、数学につきましてはやはり「小数」の部分、昨年度の全国学力・学習状況調査では、全般的に定着が図られているので、特段課題としては報告はしておりませんが、ほかの設問や領域と比べると、「小数」の部分が若干、定着が十分でないという部分も課題として挙げられておりますので、当該学年におきましては、この「小数」の部分が課題であると捉えることができます。

こういった経年変化の部分も、この学力調査を行う意義という部分で、先ほど杉本委員からお話があったとおりだと考えておりますので、また、校長会等で概要を使って説明をする際に、押さえてまいりたいと考えております。これが2点目でございます。

3点目、全国のどれぐらいの自治体でという話でございますが、本調査の委託を行う際に、約500の自治体が参加していると聞いておりますが、詳細の数値、あるいは具体的にどういった自治体がということについては、委託業者から話を聞いておりませんので、それについてはわからないという状況でございます。

4点目、小学校にどのようにこの結果を活用するのか、でございますが、本調査の結果につきましては、小学校別に結果集計を行っておりません。またもう一つは小学校に関連した複数の中学校の結果を小学校に提供していくということは、中学校間の序列化を図ることにつながるということがありますので、教育委員会から直接結果を小学校に提供するという事は行っておりません。

ただ、小学校と中学校で小・中交流会ということでブロックの連携の会議を行っておりますので、そういった中で中学校ブロックごとにこの学力調査の結果を踏まえて、小・中連携した課題の改善であるとか、逆に小学校でよいところをまたさらに中学校でどう伸ばしていくのかということについては、情報を共有しながら協議を行うようにと、校長会のところで話しているところでございます。以上でございます。

教 育 長 杉本委員。

杉本委員 ありがとうございます。

今、ご説明を受けたところで、私のさらなる質問というのはないのです

けれども、幾つか意見としてお伝えさせていただきたいと思います。

概要については校長会に出されるということですので、この結果は当然小・中学校両方で共有していただき、課長が先ほど説明されましたような、全体としての、例えば語句の構成について、去年の学年も今年の学年も弱いということなどもお伝えいただけると、小学校のほうでそのところを頑張らなければという意識につながるかと思いますので、ぜひ全体での共有をよろしく願いいたします。

2点目の経年変化につきましても、確かに2点の意味での経年変化があるのですが、今のお話ですと稲城の子どもたちの学年に共通した課題と、そして小学校から中学校に行っても引き続き持っている課題というのを、きちっと指導課がそこを見取っているなということの確認はさせていただいたと思っております。その時点での見取りと、それから学校への必要な指導を、今後もよろしく願いいたします。

3点目の全国についてですが、これも業者がどのくらい持っているかということは、正確には当然私たちには知らせられるようなものではないと思っております。わからないからこそ、全国という出し方はいかがなものかなと思っております。

例えば全国といっても、受けている自治体が比較的全国学力調査で高い位置にある傾向があるのでしたら、全国というふうに出しても、それは必ずしも全国平均という言葉には当てはまらないと思います。ですから、これは非常に言葉としての間違い、正確ではない情報を、この言葉だけを見るとインプットされてしまうことにもつながりかねないと思いますので、例えばですけれど、業者が提案している平均値的な、どれだけクリアすればいいかという一つの基準点ですとか、そのような言葉を教育委員会としては使ったほうがよろしいかなと思いますけど、これはまた、今後の検討事項にさせていただければと思います。

例えば全国学力調査、また東京都の児童・生徒の学力向上を図るための調査につきましても、受験対象が明確ですので、平均と比べるという記載も意味があることかと思っておりますけれど、これはコンセプトとしては市独自の学力調査ということで議会の予算も通っているはずかと思っておりますので、全国との比較を大きく出すということはいかがなものかなと思っておりますので、そのところは今後よろしく願いいたします。

4点目、私がここで伺いましたのは、先ほどから何度か課長の説明の中に、生活についてのアンケートで、30年度よりも向上しましたというお話があったと思います。

私は理想的なストーリーとしては、この結果を、どこの学校という個別でなくても、稲城全体の傾向として、小学校に聞いた上で、小学校が6年卒業まで、「このところが課題だったからここを改善しよう」という意図的、計画的な目的ののっとなって行った結果であれば、非常にこの学力調

査の成果の意味があらわれるかと思えます。ただ、これが、よくわからないけど結果として偶然よくなったということでは、調査の結果の改善状況はわかるけれども、調査結果を踏まえての、何らかの取り組みをしたということとは言えないと思えます。

学力調査の本来の意味というのは、何らかの結果を受けて何らかの意図的、計画的な改善策を講じての末の結果として、成果の見える向上ということにあるかと思えますので、ぜひ今後は小学校への提供ということにも心に置きながら、情報提供をしていただきたいと考えております。

教 育 長 指導課長。

指導課長 ありがとうございます。

今、杉本委員からありました、まず全国の表記の件につきましては、検討課題とさせていただけたらと思えます。

また、校長会で伝えていく際に、今ありましたアンケートの概要についても伝えながら、今回は31年度の調査なので、これを受けて、また中学校だけでなく小学校でも学習、それから生活面について、計画的に、意図的に改善を図るように指導をしてまいりたいと考えております。

杉本委員 よろしく申し上げます。

教 育 長 ほかに。

ほかに質疑がないようですので、以上で報告事項2「平成31年度稲城市学力調査結果概要について」の質疑を終結いたします。

以上で本日の議事日程は全て終了いたしました。

これにて閉会といたします。お疲れさまでした。

(午前11時08分閉会)